

2005年3月期  
第3四半期説明会

2005年2月10日  
ヤマハ株式会社

# 3Q決算の概要



3Q売上高は、楽器、AVが計画割れとなり、全体では中間期発表時(11/2)の前回予想に対し約4%の減収

また、対前年同期との比較では「STAGEA」効果もあり、楽器が増収となったものの、半導体の減収幅が大きく全体では約3%の減収

営業利益は、レクリエーションを除く全セグメントで前回予想に対し、増益となり全体でも増益となったものの、対前年同期では大幅な減益

4～12月の累計では、楽器、AVが対前年同期増収増益。他のセグメントは減収減益。特に半導体、リビング、レクリエーションの減益幅が大きい。

3Q末在庫は、楽器、AVを中心に前回予想(+84億円)、前年同期(+60億円)を上回っている。

3Q末での実質有利子負債は、220億円

# 2005/3期 3Q業績概要



➤3Q業績は前年同期実績に対し減収減益。  
 (当期利益は代行返上益計上により増益)  
 前回予想(11/2)に対しては減収増益。

(億円)

	04/3 (3Q) 実績	05/3 (3Q) 実績	前年同期比	前回予想 (04/11/02)	前回予想比
売上高	1,491	1,449	2.8%	1,509	4.0%
営業利益 (営業利益率)	187	139	25.7%	122	+13.9%
経常利益 (経常利益率)	215	164	23.7%	144	+13.9%
当期利益 (当期利益率)	195	254	+30.3%	236	+7.6%

持分法損益                      40                      35                      37

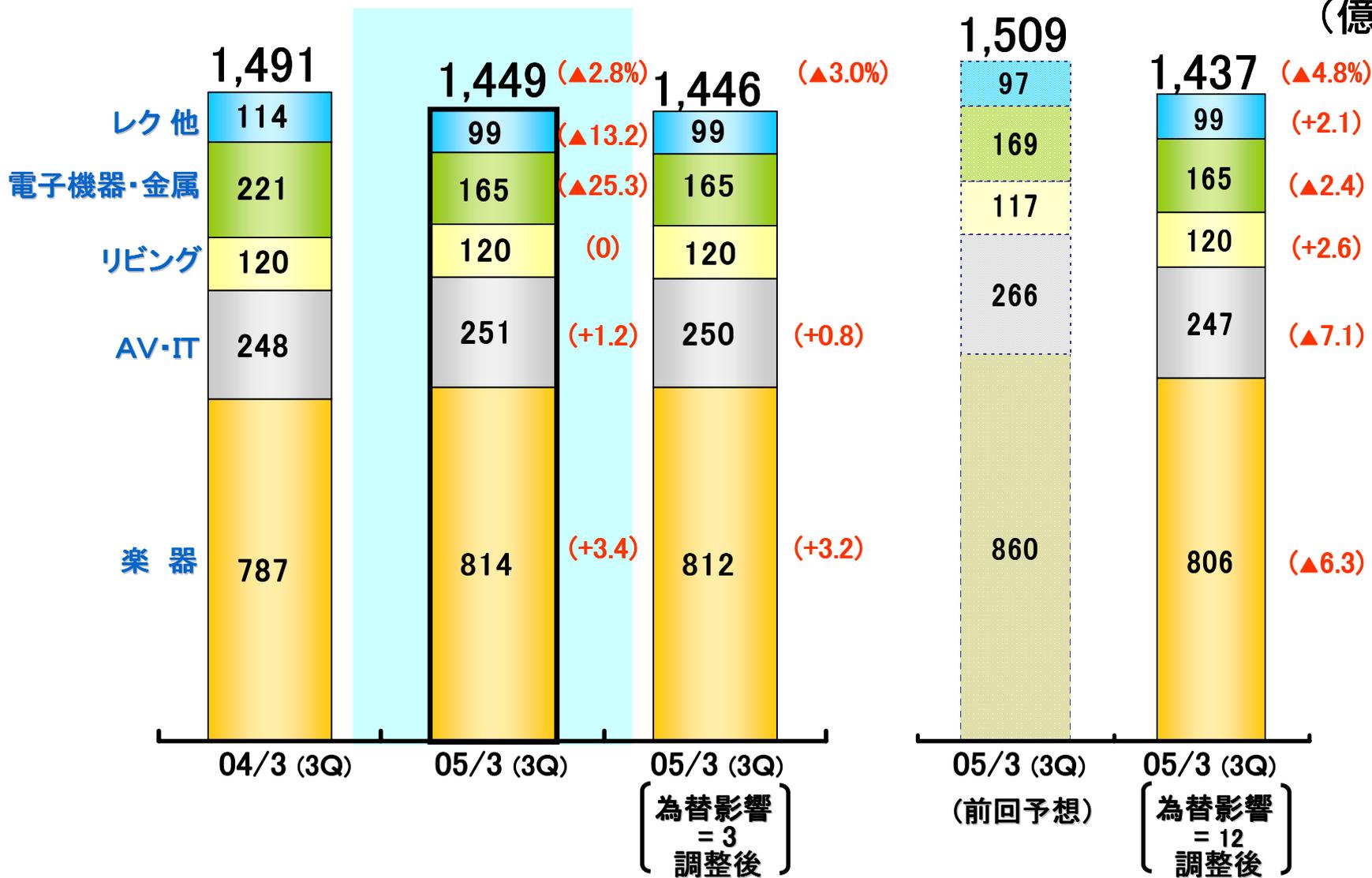
為替レート

売上高	US\$	109	106	110
	EUR	129	137	127
利益	US\$	110	107	110
	EUR	130	134	127

# 2005/3期 3Q事業別売上高



(億円)



前年同期比較

( )内は前年同期比

前回予想比較

( )内は前回予想比

# 2005/3期 3Q事業別営業利益



(億円)

	04/3 (3Q)	05/3 (3Q)	+ /	為替 影響	実質 + /	前回予想 (11/2発表)
楽 器	55	74	+19	+2	+17	67
A V ・ I T	32	24	8	+1	9	21
リ ピ ン グ	6	3	3		3	2
電子機器・金属	96	46	50		50	38
レクリエーション	3	8	5		5	5
そ の 他	1	1	0		0	1
計	187	139	48	+3	51	122

\* 前回(11/2)予想との比較では、+17億円。  
 内、3Qでの為替影響は+9億円(楽器 +5億円、AV・IT +4億円)  
 従って、実質ベースでは前回予想に対し、8億円の増益

# 2005/3期 業績予想



➤4Q為替レートは、US\$=110円、EUR=134円(従来127円)を前提

➤通期予想は前回予想に対し減収減益 (億円)

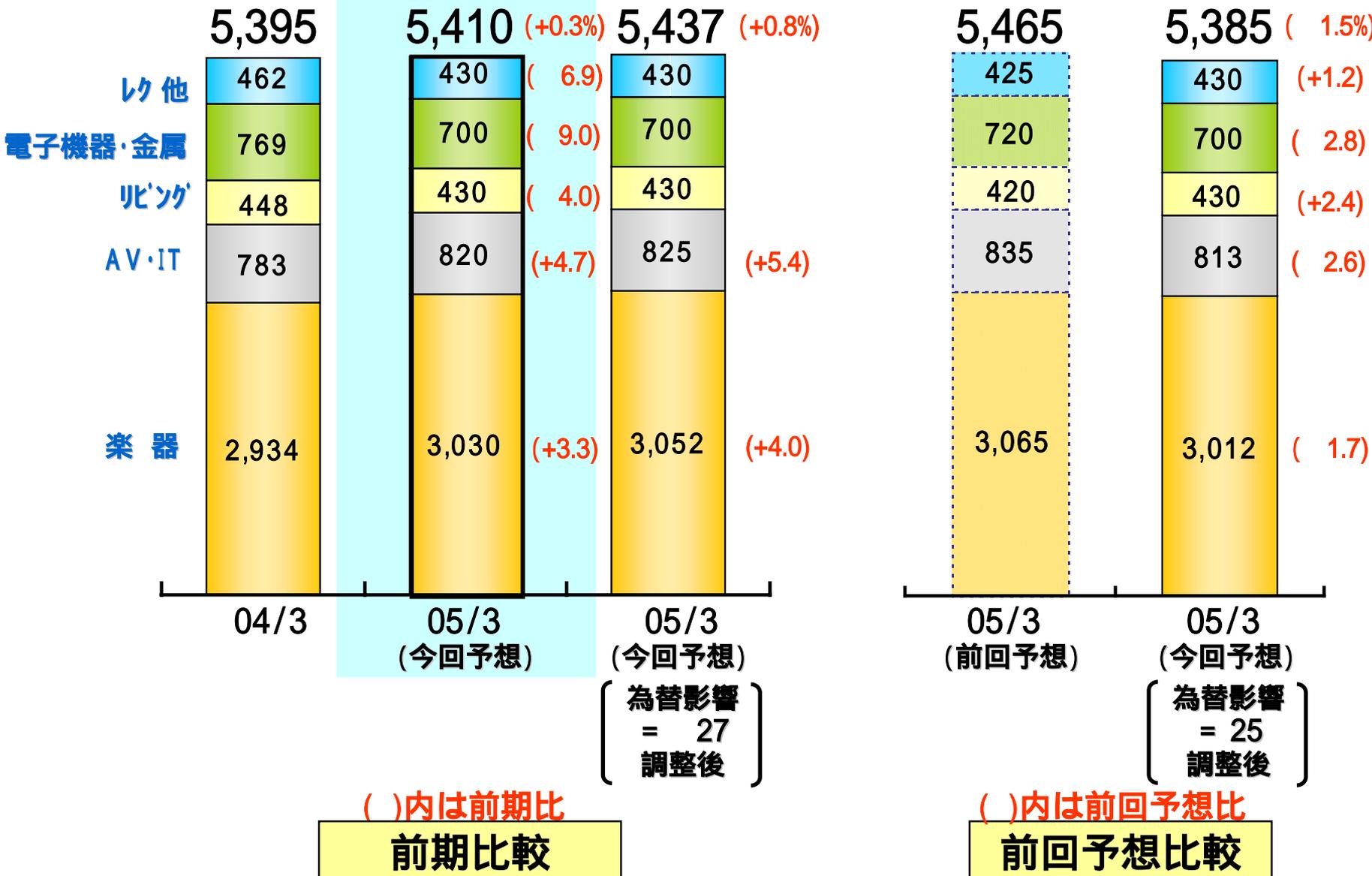
	1Q~3Q 実績	4Q 予想	05/3期 (今回予想)	05/3期 (前回予想)	04/3期 実績	前回予想 変化率	前年実績 変化率
売上高	4,135	1,275	5,410	5,465	5,395	1.0%	+0.3%
営業利益	381 (9.2%)	21	360 (6.7%)	380 (7.0%)	451 (8.4%)	5.3%	20.2%
経常利益	447 (10.8%)	37	410 (7.6%)	425 (7.8%)	510 (9.5%)	3.5%	19.6%
当期利益	193 (4.7%)	2	195 (3.6%)	195 (3.6%)	435 (8.1%)	0%	55.2%

為替レート		1Q~3Q 実績	4Q 予想	05/3期 (今回予想)	05/3期 (前回予想)	04/3期 実績
売上高	US\$	108	110	109	110	113
	EUR	135	134	135	130	133
利益	US\$	109	110	109	110	114
	EUR	133	134	134	129	129

# 2005/3期 通期事業別売上高予想



(億円)



# 通期 事業別営業利益予想



(億円)

	04/3 実績	05/3 予想	+ /	為替 影響	実質 + /	前回 (11/2) 予想
楽 器	105	140	+35	+3	+32	155
A V ・ I T	44	45	+1	+12	11	45
リ ピ ン グ	15	5	20		20	5
電子機器・金属	300	200	100		100	200
レクリエーション	11	20	9		9	15
そ の 他	2	0	+2		+2	0
計	451	360	91	+15	106	380

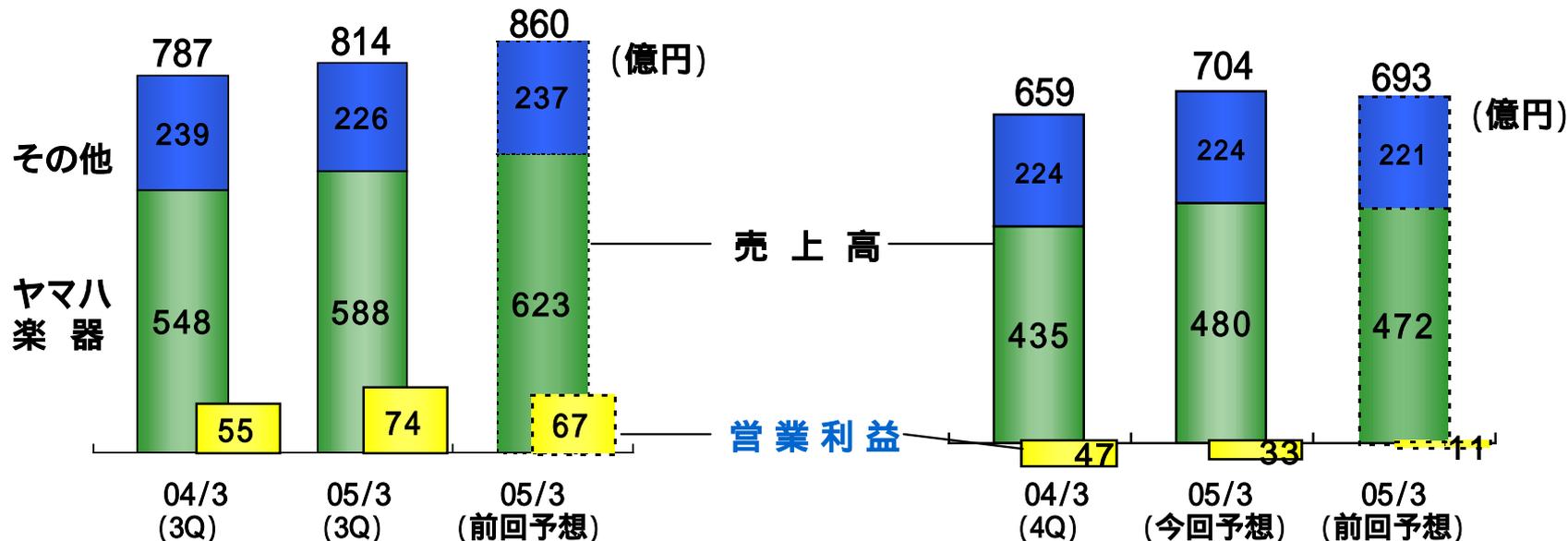
\* 前回(11/2)予想との比較では、20億円。  
うち下期での為替影響は15億円(楽器 10億円、AV・IT 5億円)  
従って、実質ベースでは前回予想に対し、35億円

## 3Qの状況

- ・3Q業績は前年同期比増収増益
- ・実質売上は前年同期比3.2%の増収  
(前回予想比では6.3%の減収)
- ・米国はディスクラピア「Mark」・ポータブルキーボードが牽引し前年同期比増収、欧州は前年並み
- ・国内はエレクトーンが大幅に増収となった。  
ピアノは漸減継続し、全体では前年同期微増にとどまる。
- ・新商品ディスクラピア、CVP、デジタルミキサーは好調
- ・3Q末在庫は前年同期及び前回予想に対し増加

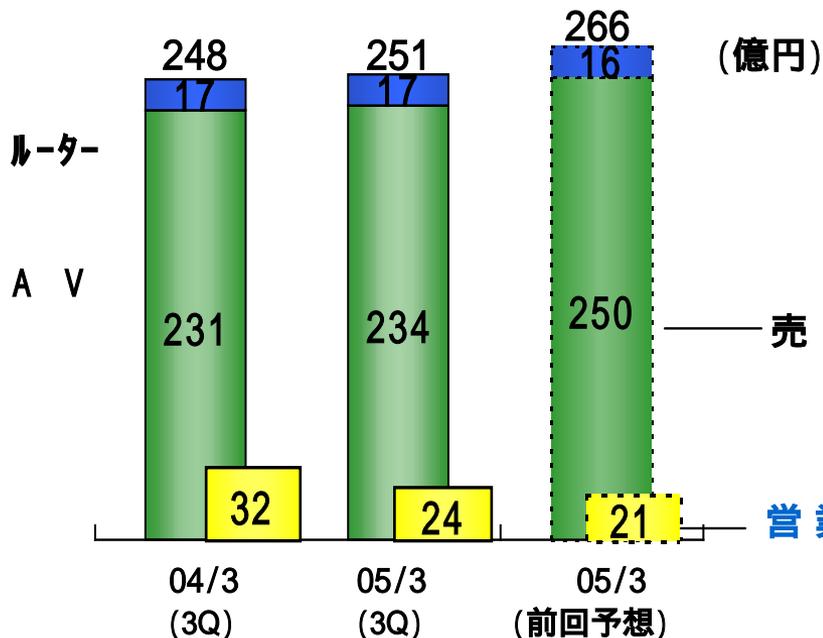
## 4Qの予想と重点施策

- ・4Q売上高は、北米を中心にディスクラピア「Mark」とNewCVPの拡売により、対前回予想、前年同期とも増収の計画
- ・営業利益は、国内需要喚起のためTVCM等広告費増と減産影響により、対前回予想減益
- ・国内は春の生徒募集(目標:前年比103%)と、エレクトーン2年目以降対策に注力
- ・ピアノ、ポータブルキーボードを中心に、減産による在庫の圧縮



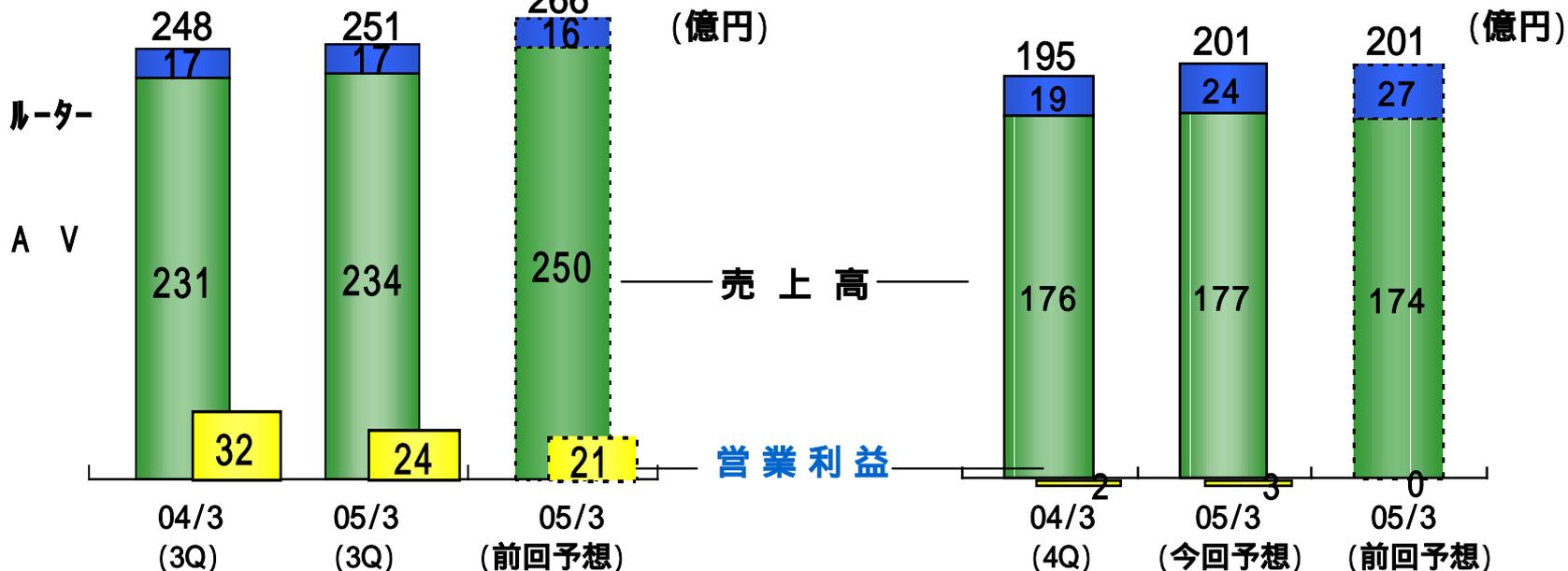
## 3Qの状況

- ・3Q業績は前年同期比増収減益
- ・3Q実質売上は前年同期微増(前回予想に対しては実質7.1%の減収)
- ・AVは北米引き続き好調。国内、欧州はやや低調。ルーターはほぼ計画どおり
- ・営業利益は、競争激化に伴う価格ダウンにより前年同期に対し減益
- ・3Q末在庫は、前年同期及び前回予想に対し増加



## 4Qの予想と重点施策

- ・4Q売上高は、対前回予想どおりの計画
- ・新規商品YSP-1(ヤマハサウンドプロジェクター)の軌道乗せが最重点テーマ
- ・新商品のスムーズな市場導入  
中高級AVレシーバー、低価格システム商品、ルーター等(新商品26モデル)
- ・中国、韓国、アジア市場での販売網整備
- ・在庫削減の徹底

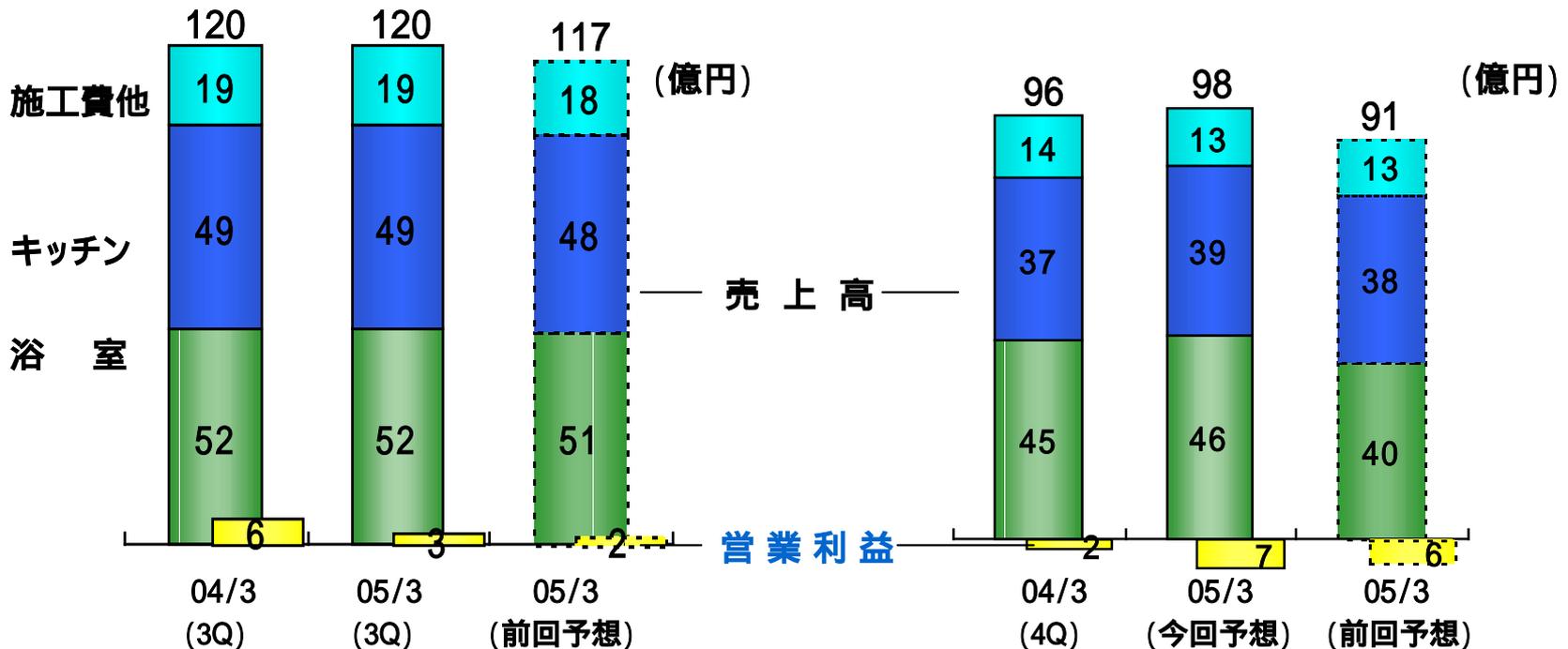


## 3Qの状況

- ・3Qは対前回予想増収増益
- ・10月発売のキッチン新商品効果と浴室価格政策が功奏
- ・キッチンはマーブルシンクが好評でシェア回復
- ・販路別では卸ルートが回復基調

## 4Qの予想と重点施策

- ・4Q売上高は前年同期、前回予想を上回る98億円の計画
- ・浴室はミスト、キッチンはマーブルシンクへ集中特化し拡売を目指す
- ・リビング事業構造改革の詳細詰め  
4月以後実施



# リビング事業構造改革骨子

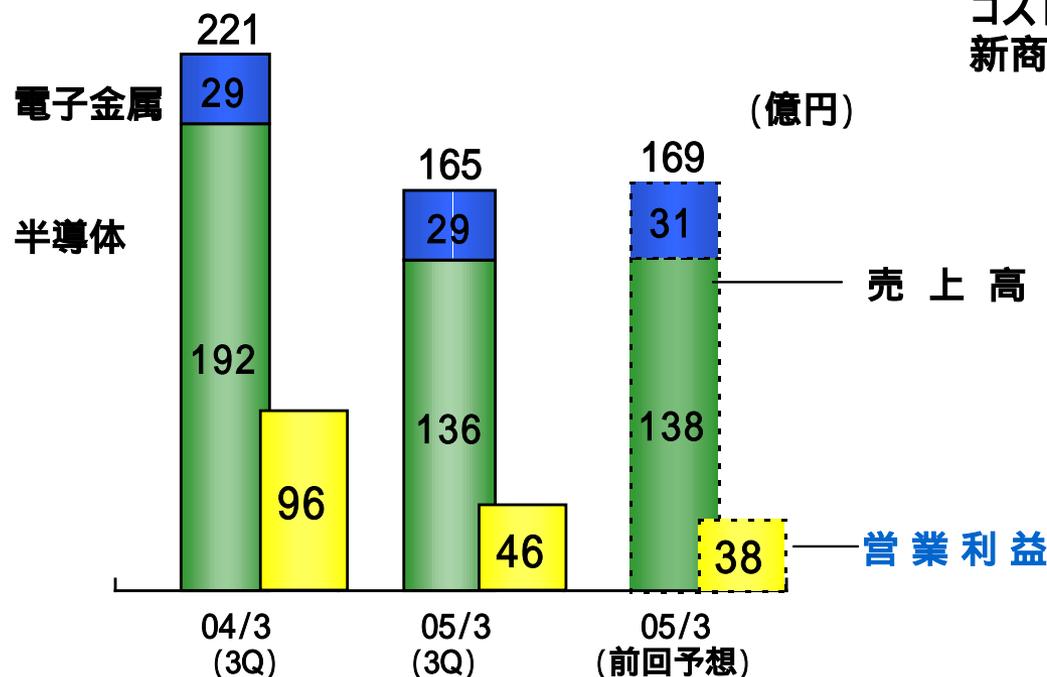


- **事業の「選択」と「集中」**
  - ・BUを「浴室」、「システムキッチン」に集中
  - ・不採算の建材・ドア事業からの段階的撤退  
(2年を目処に07/3までに終了)
  - ・事業撤退による空きスペースを利用した化成品部材生産内作化による付加価値取り込み
- **生産、販売、技術、施工一体となったローコストビジネスモデルの確立**
  - ・ローコストベースモデル開発  
製造コストダウン仕様モデル、簡易施工商品モデル、関連機器の標準仕様絞込み
  - ・物流～施工一貫体制によるコストダウン  
一部商品は完成品出荷から部材出荷へ切り換え 自社施工体制の確立
- **卸営業改革**
  - ・ルート中心からショールームを活用した営業への転換
  - ・ショールーム再配置、リニューアル、新設、機能強化
- **事業構造に最適な要員構造への転換(人員再配置、職種転換)**

詳細詰まり次第、上記施策を展開する。

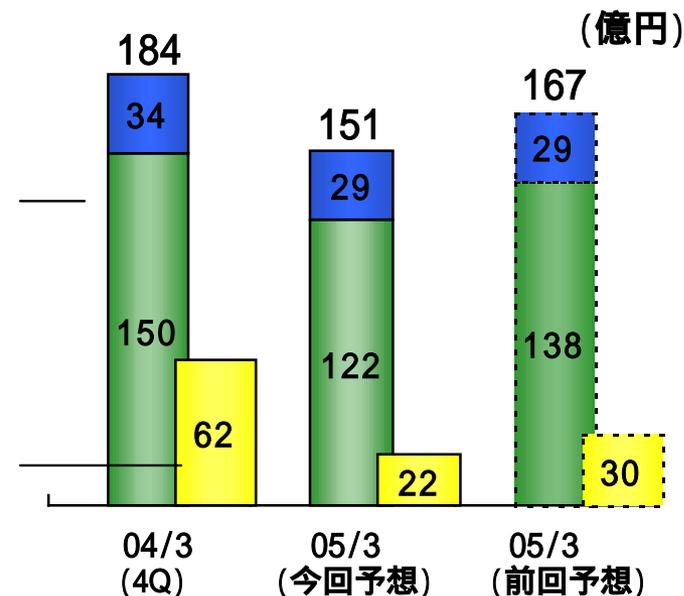
## 3Qの状況

- ・3Q営業利益は、半導体の大幅減収に伴ない、対前年同期半減。
- ・半導体は、主力の携帯電話用音源LSIの在庫調整影響と販売単価下落影響で、対前年同期減収減益
- ・電子金属は、デジタル家電の減速、調整局面継続



## 4Qの予想と重点施策

- ・4Q業績は市場状況を見据え、売上、利益とも前回予想を下方修正
- ・主力の携帯電話用音源LSIは、在庫調整と単価下落継続。音源の機能強化と着うた対応も含めた顧客ニーズに対応したラインアップ拡充を図る
- ・電子金属は、4Q後半からの市況回復に向け、コスト競争力強化とオーリン社との協業による新商品の立上げに注力

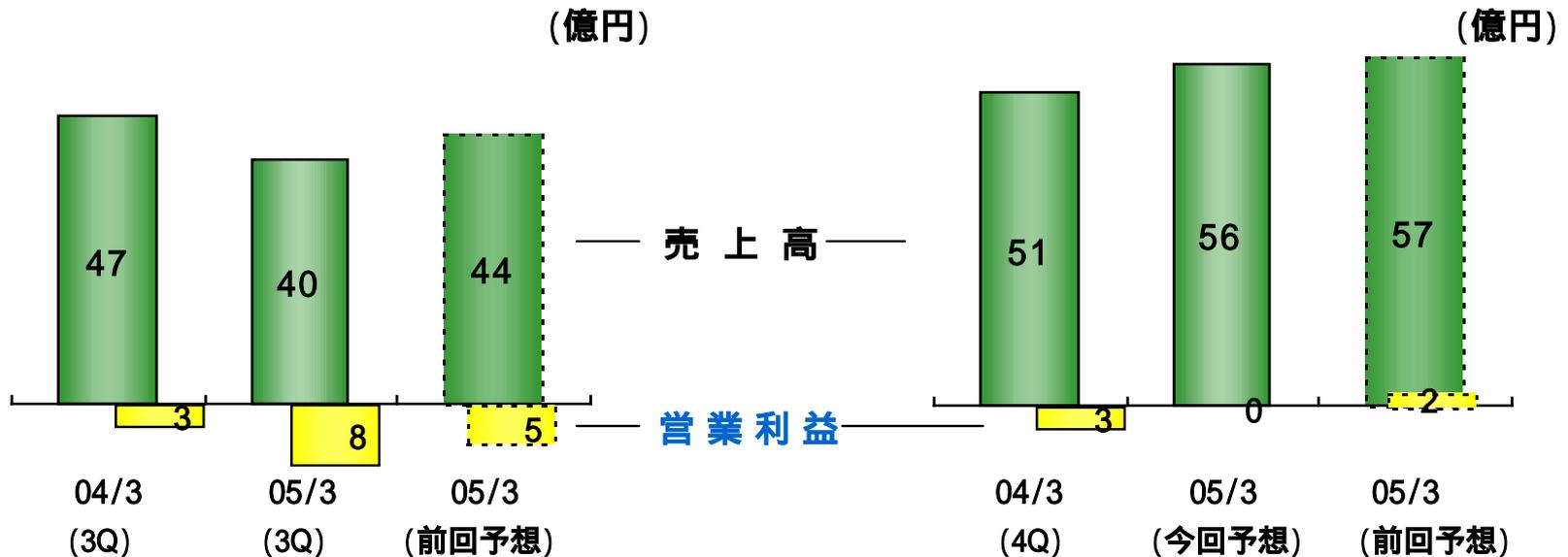


## 3Qの状況

- ・3Qは対前年同期、前回予想とも減収減益
- ・各施設とも集客苦戦。加えて台風、降雪遅れ等の天候不順要因や施設の一部改修によるクローズもあり、対前年同期大幅な減収。赤字幅も拡大

## 4Qの予想と重点施策

- ・4Qでは前回予想に対し若干の減収を見込むものの損益イーブンが目標
- ・集客数確保施策の展開と一層の営業効率向上により、収益改善を目指す
  - ・オンシーズンの「キロロ」の集客確保
  - ・「はいむるぶし」増室オープン(2月)による増収
  - ・中部国際空港開港に合せた販促企画展開

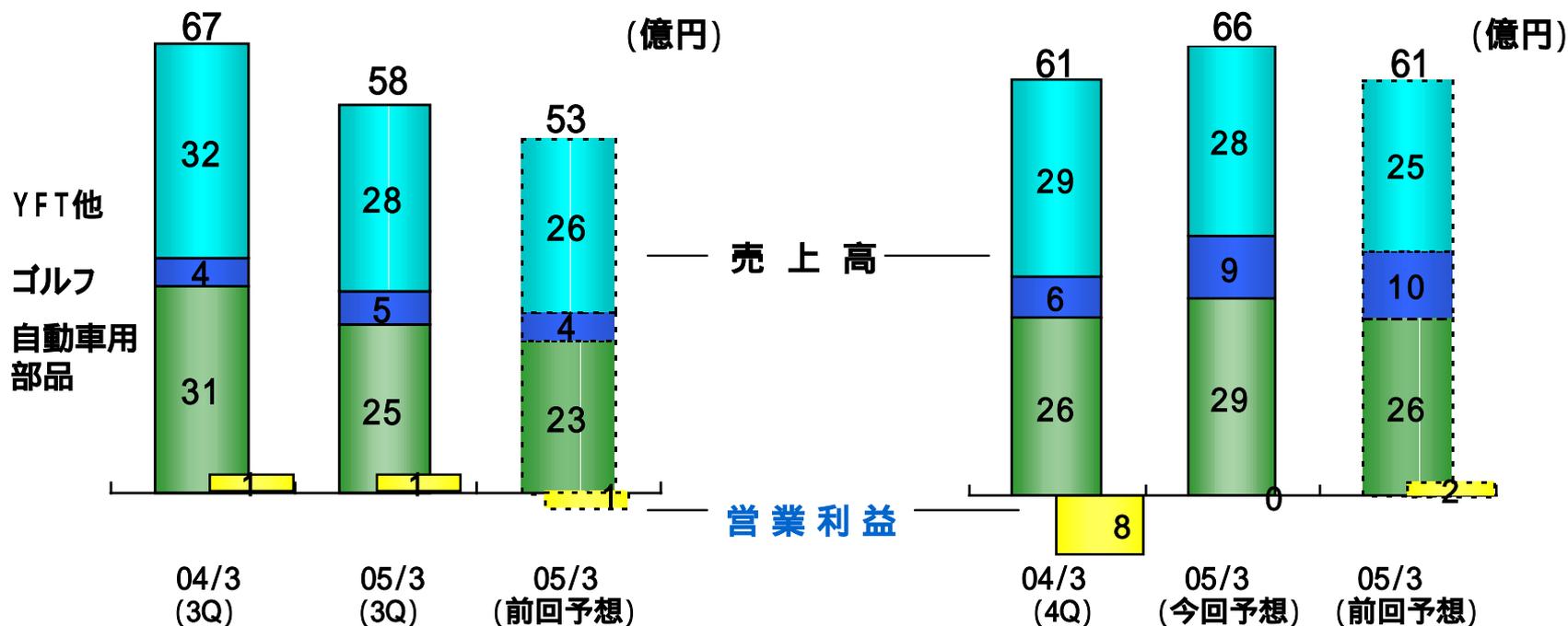


## 3Qの状況

- ・セグメント全体では営業黒字を確保
- ・FA好調継続。携帯電話用Mg部品は、前回予想並み。歩留改善も進む。
- ・自動車用内装部品は対前回予想増収。ゴルフは対前年同期、前回予想とも増収

## 4Qの予想と重点施策

- ・4Q売上高は、前年同期、前回予想を上回る66億円の計画
- ・携帯電話用Mg部品はロスコスト低減継続による歩留まり向上と顧客のMg離れが進む中で新規顧客開拓が課題



# 2005/3期 3Q営業外損益、特別損益



	04/3(3Q)実績	05/3( 3Q)実績	05/3 前回予想
			(億円)
<b>営業外損益</b>			
持分法利益	40	34	37
金融収支	3	2	4
その他	9	7	11
計	+ 28	+ 25	+ 22
<b>特別損益</b>			
固定資産処分損益	1	1	1
その他	1	197	199
		年金代行返上益 198	年金代行返上益 197
計	2	+ 196	+ 198
<b>法人税他</b>			
法人税等	16	106	106
少数株主持分	2	0	0
計	18	106	106

# 2005/3期 通期営業外損益、特別損益

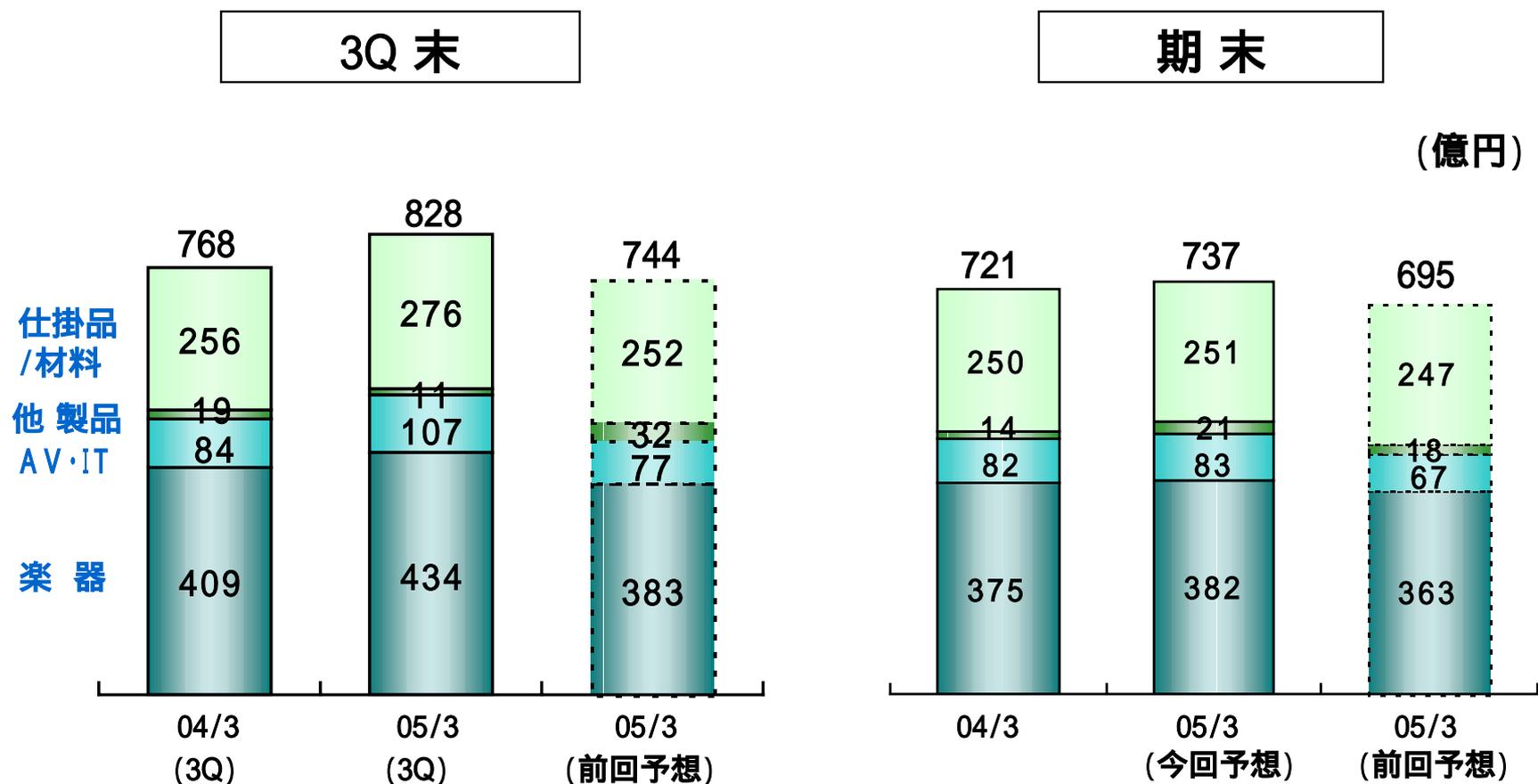


	04/3実績	05/3今回予想	05/3前回予想
(億円)			
<b>営業外損益</b>			
持分法利益	104	91	93
金融収支	10	4	5
その他	35	37	43
計	+ 59	+ 50	+ 45
<b>特別損益</b>			
固定資産処分損益	23	8	8
その他	12	72	77
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・代行返上益 198</li> <li>・投資有価証券売却益 67</li> <li>・減損損失 325</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代行返上益 197</li> <li>・資産処分益等52</li> <li>・減損損失 325</li> </ul>
計	35	80	85
<b>法人税他</b>			
法人税等	35	131	141
少数株主持分	5	4	4
計	40	135	145

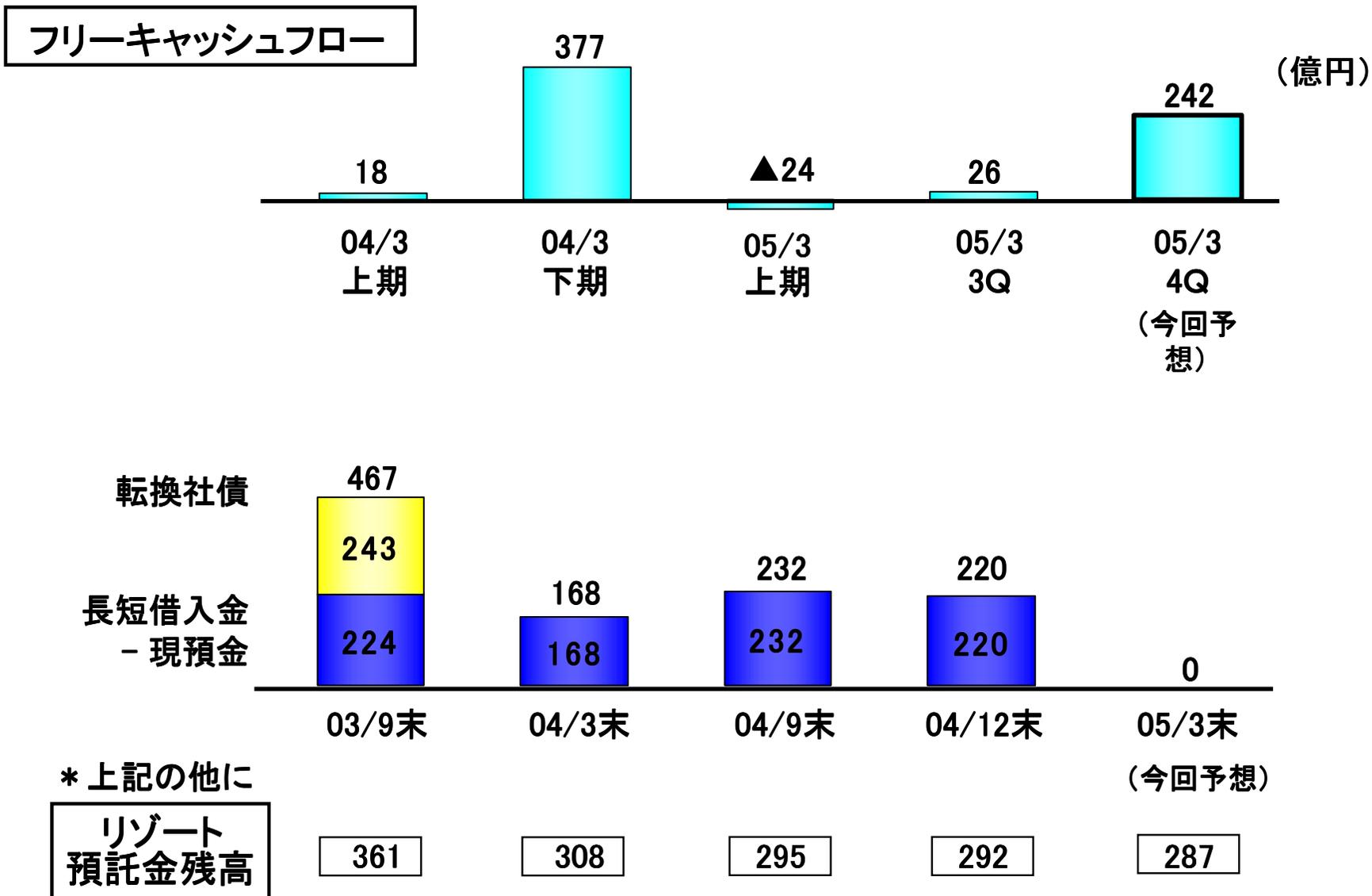
# 棚卸資産



- 3Q末在庫は前回予想及び前年同期に対し増加  
期末にかけて、減産を含め、前年並み水準まで在庫の圧縮を図る



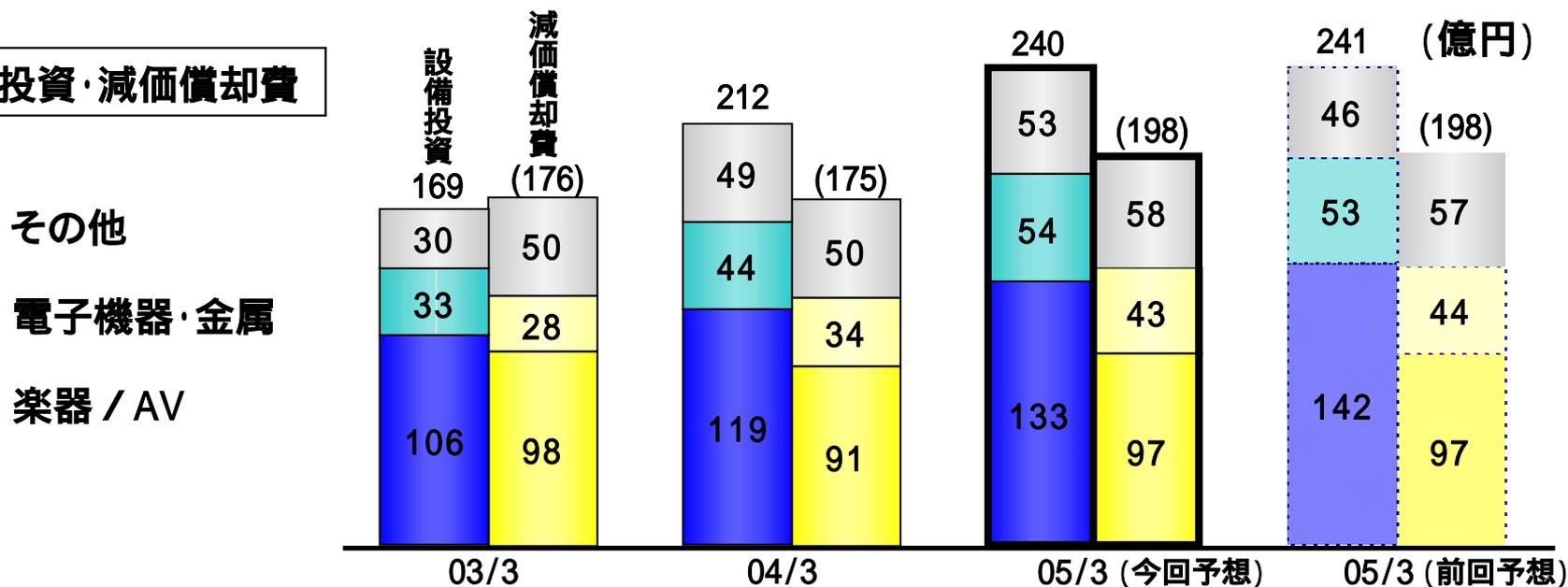
# 実質有利子負債



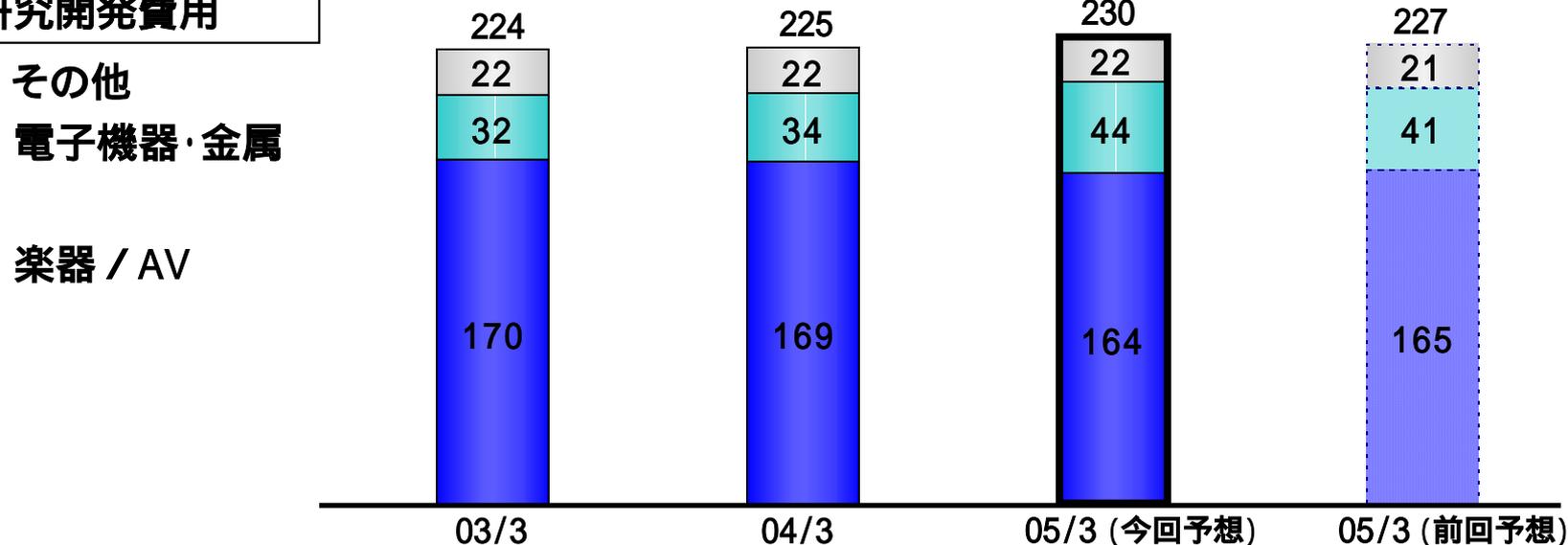
# 設備投資・減価償却費 / 研究開発費



## 設備投資・減価償却費



## 研究開発費用



# 予想貸借対照表



(億円)

	3Q末			期末		
	03/12末	04/12末	増減	04/3末	05/3末	増減
現預金	460	428	32	321	444	123
売上債権	1,001	893	108	787	730	57
棚卸資産	768	828	60	721	737	16
他流動資産	191	254	63	188	263	75
固定資産	3,015	2,803	212	3,070	2,852	218
<b>資産計</b>	<b>5,435</b>	<b>5,206</b>	<b>229</b>	<b>5,087</b>	<b>5,026</b>	<b>61</b>
仕入債務	400	407	7	399	389	10
借入金	626	648	22	489	432	57
転換社債	243	0	243	0	0	0
他負債	1,568	1,379	189	1,602	1,392	210
資本計	2,598	2,772	174	2,597	2,813	216
<b>負債・資本計</b>	<b>5,435</b>	<b>5,206</b>	<b>229</b>	<b>5,087</b>	<b>5,026</b>	<b>61</b>

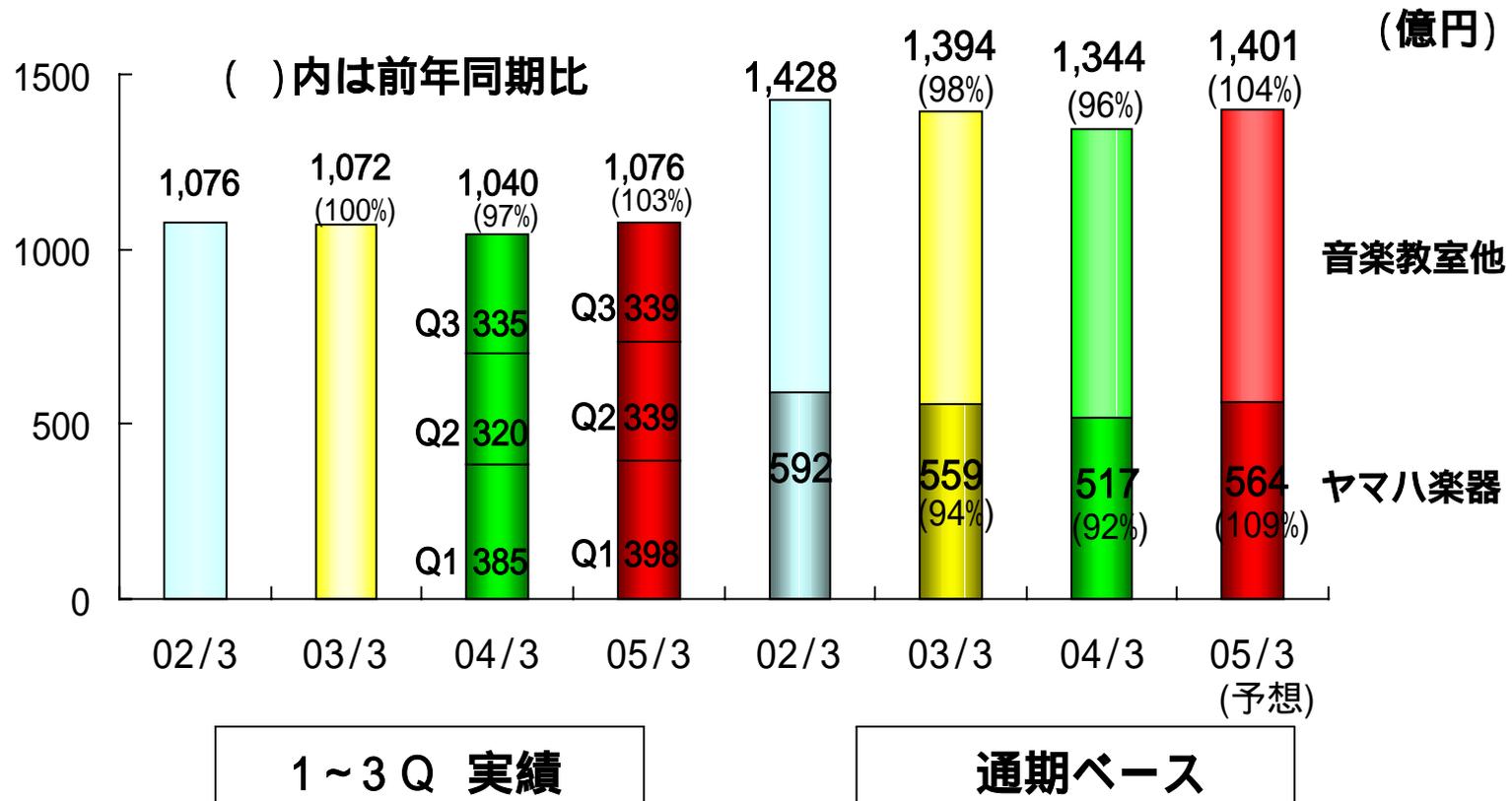
\* 他負債に少数株主持分を含む

# 付属資料

# 日本市場のヤマハ楽器販売状況



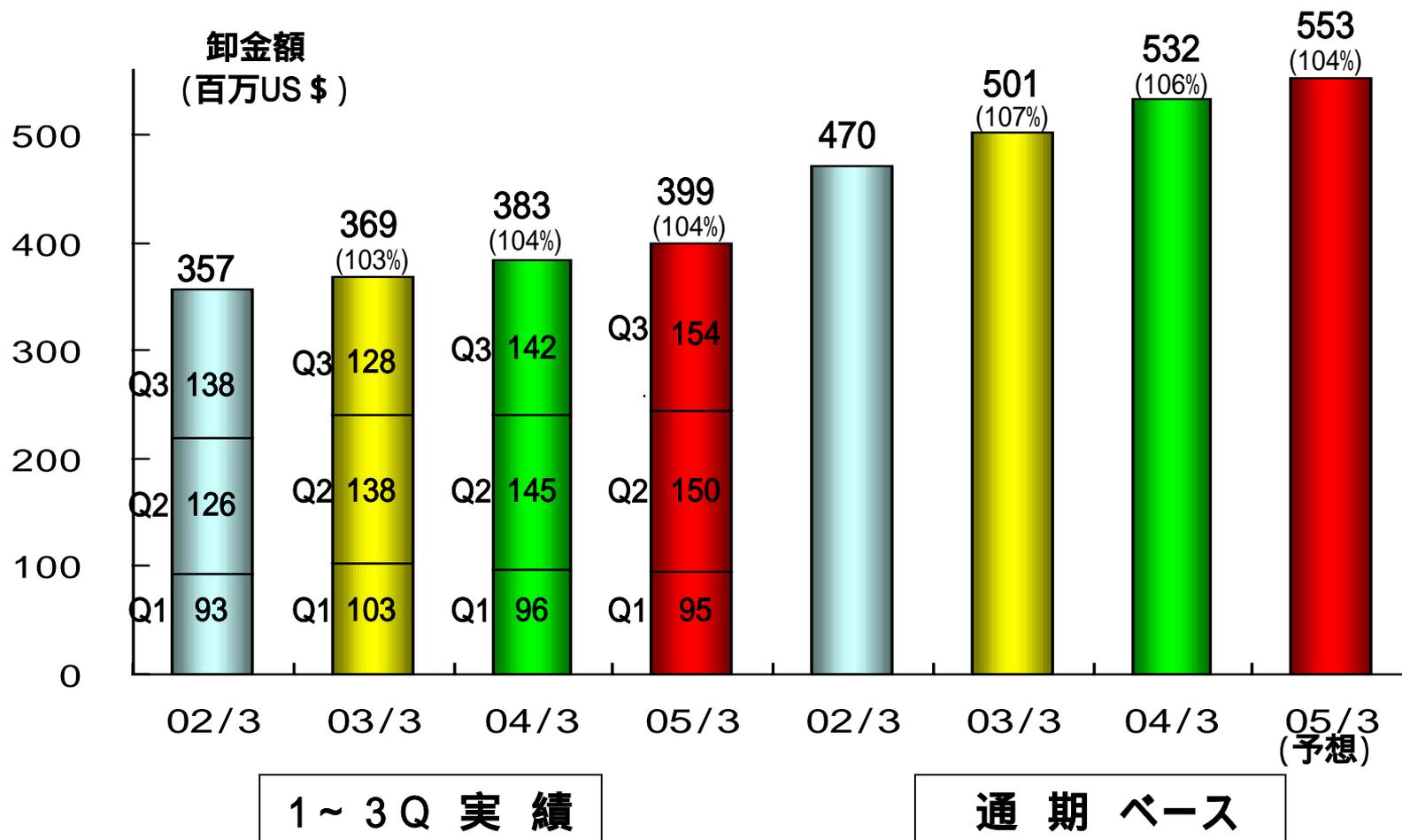
ピアノ市場は依然減少傾向が続き、エレクトーン「STAGEA」が引き続き販売好調を維持(発売以来約23,000台の出荷、うち12月末までの当期出荷は約20,000台)最新の音源を使用、可搬性などがヒットの要因。



# アメリカ市場のヤマハ楽器販売状況



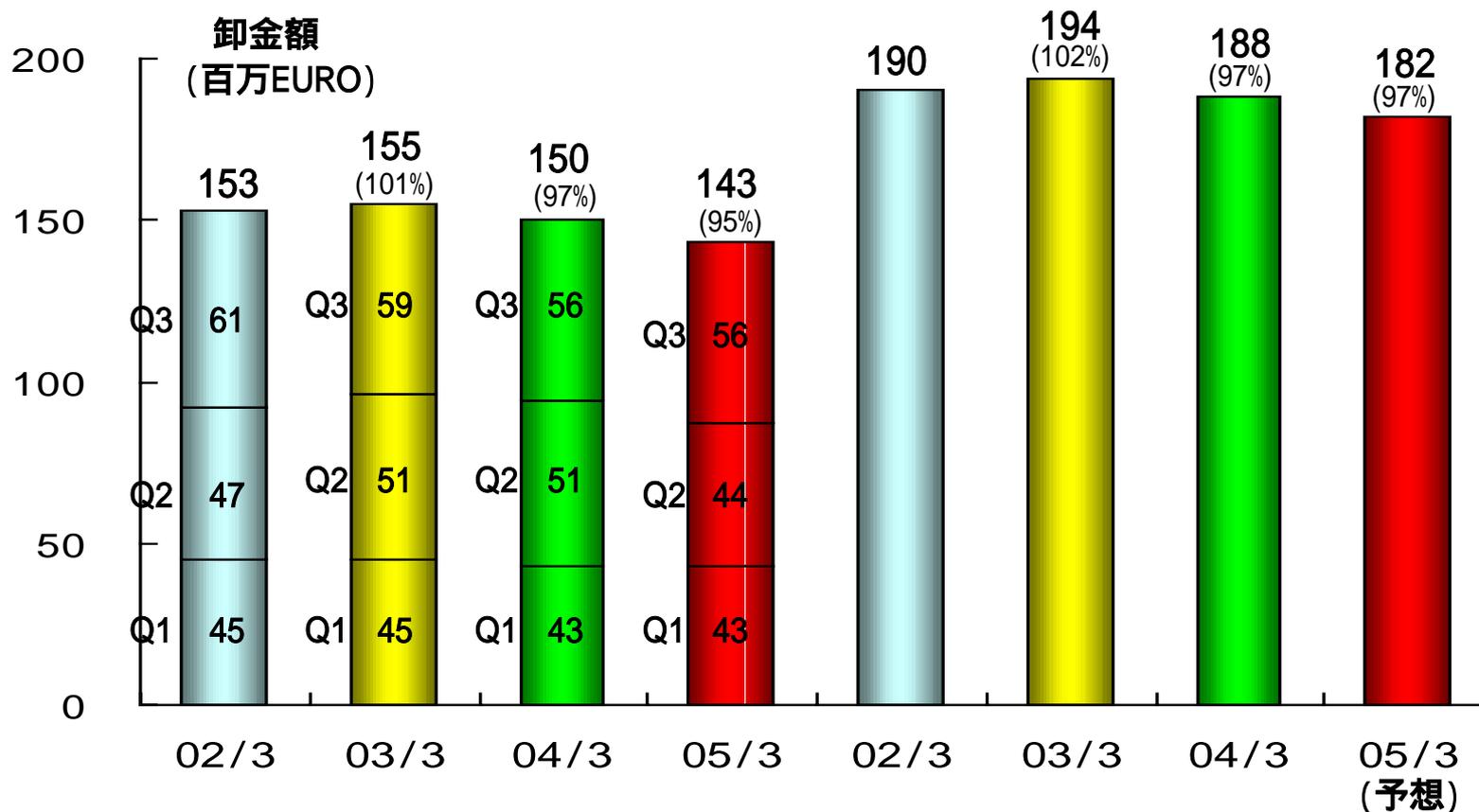
「Mark」を中心にディスクlavierがクリスマスシーズンに出荷好調、電子ピアノはやや低調だが、ポータブルキーボードが量販店中心に順調に推移。



# ドイツ市場のヤマハ楽器売上推移



一般の小売、特に電子ピアノ市場全般が好調に推移した模様。ポータブルキーボードは低価格モデルが厳しく、管楽器は特別オファーにより売上が維持されている状態。



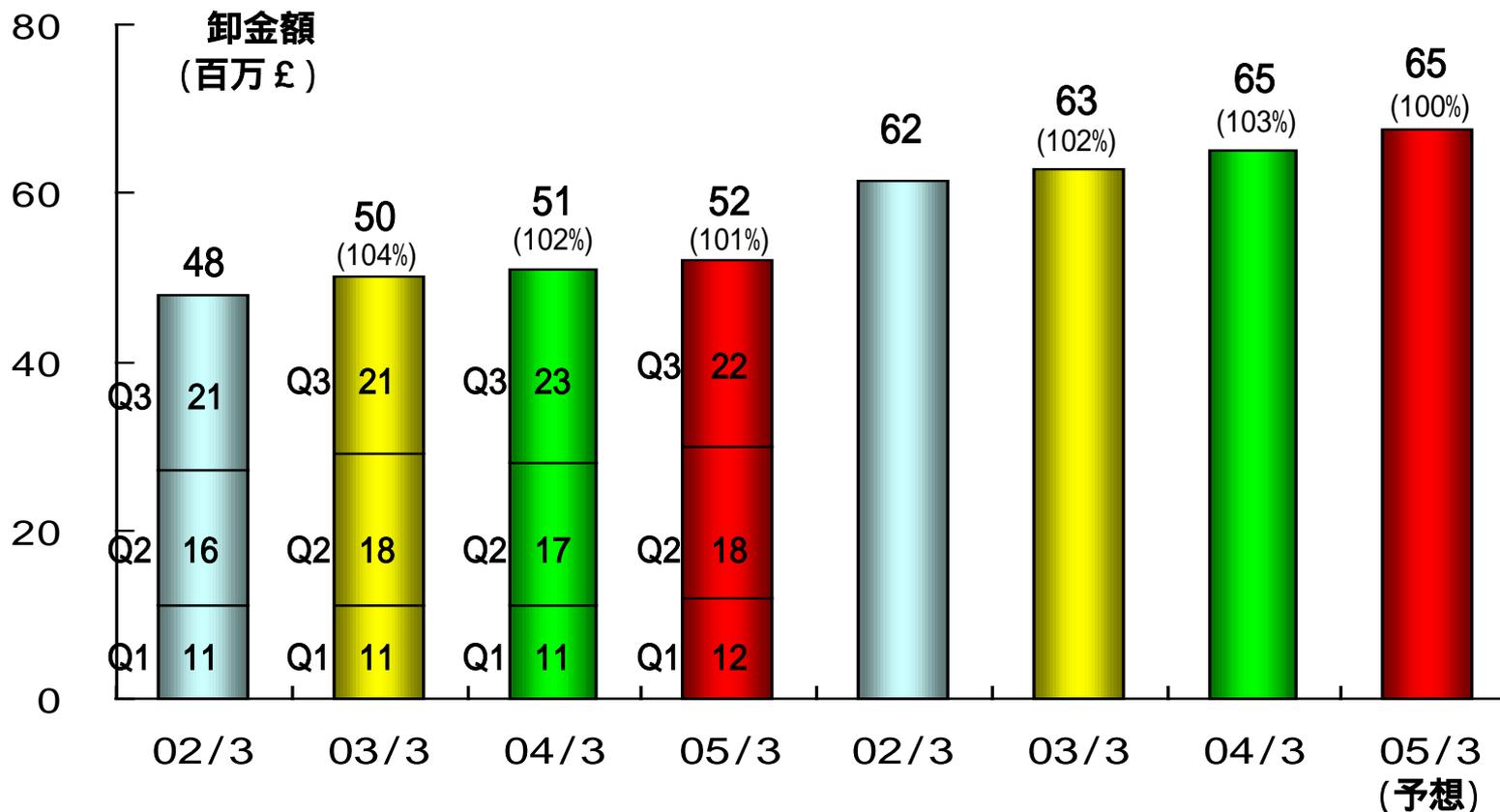
1~3Q実績

通期ベース

# イギリス市場のヤマハ楽器売上推移



クリスマスセールの小売状況は盛り上がりなかったものの、グランドピアノ、電子ピアノ、ポータブルキーボードの販売は好調に推移。管楽器が厳しく特別条件オファー予定。



1 ~ 3 Q 実績

通期ベース

# ホームシアター市場規模

(ホームシアターシステム + アンプ・レシーバー)



## < ホームシアターシステム >

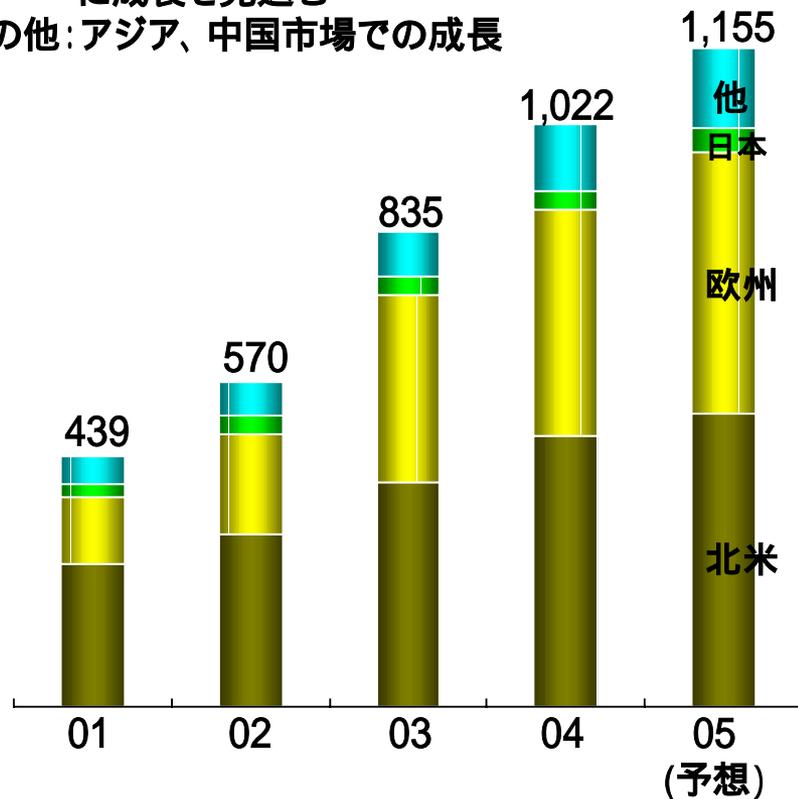
伸び率は鈍化しているものの、05年も前年比10%強の成長を見込む

北米: HTiBタイプ、DVD内蔵型とも引続き伸長。全体では約10%程度の成長を予測

欧州: DVD内蔵型中心で、引続き20%前後の高い成長が見込まれる。

日本: ホームシアター市場は低迷。05年はHTiB中心に成長を見込む

その他: アジア、中国市場での成長

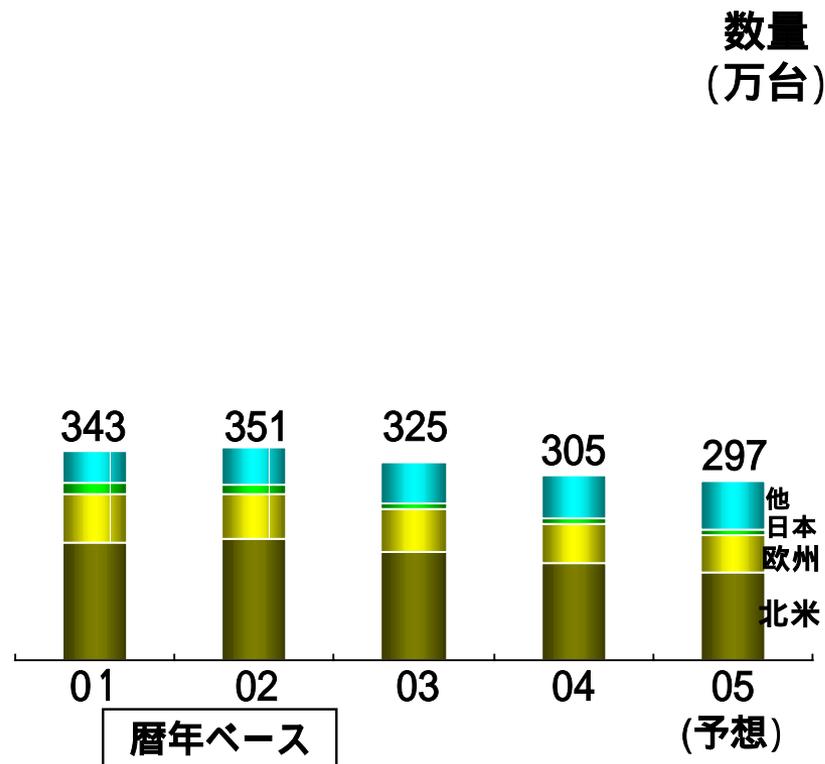


## < AVアンプ・レシーバー >

市場は漸減傾向継続

北米は年率10%程度の減少継続。

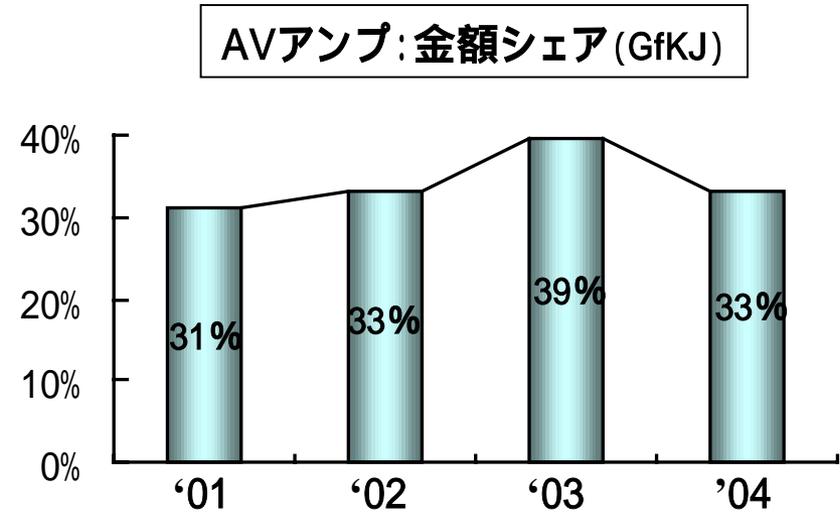
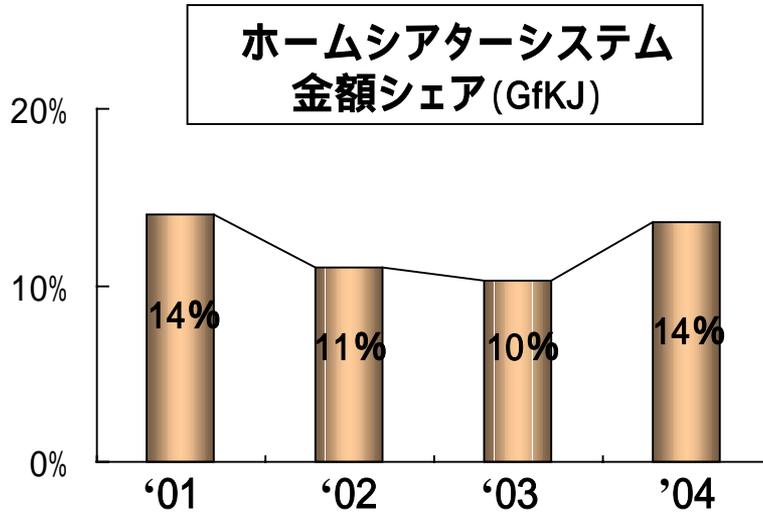
欧州、日本も5%前後の減少。アジア、中国市場では成長の見通し。



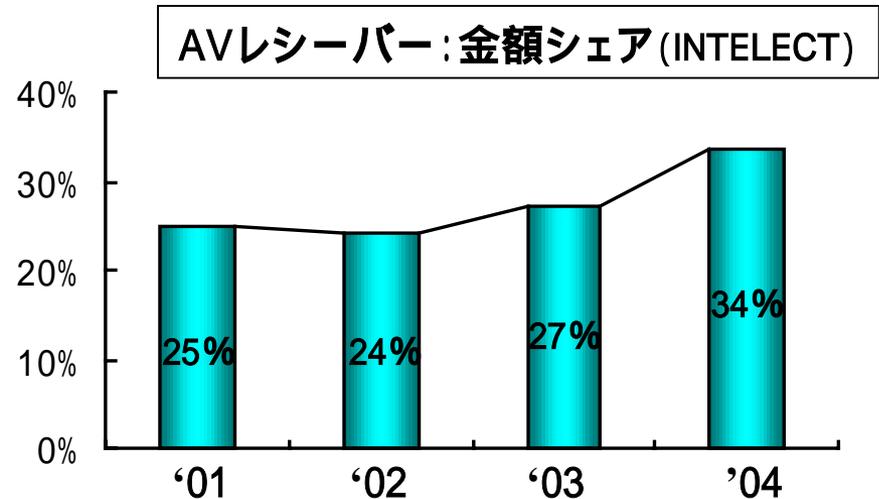
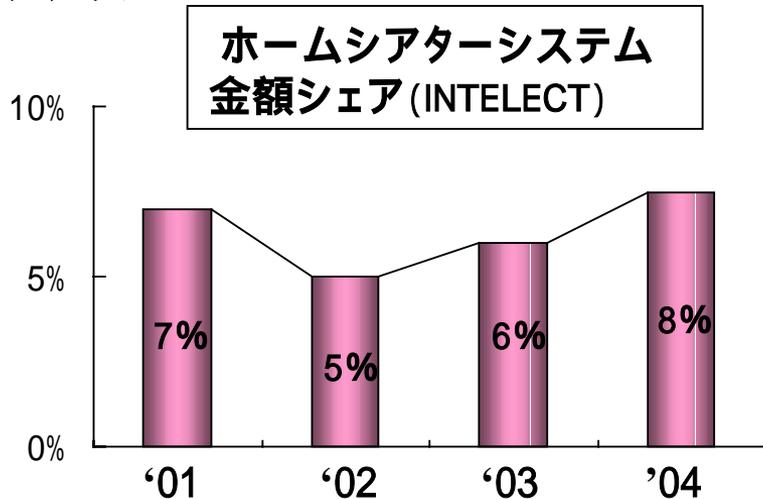
# AV マーケットシェア



## 日本



## アメリカ



暦年ベース

**この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基づいており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。**

**従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。**